

1 学校運営の中期目標

現状と課題

○不登校傾向生徒の状況について

- ・令和6年度からスペシャルサポートルーム（SSR）をモデル設置したことにより、不登校生徒に関する統計上の数値は減少傾向にあるが、昨年度の12月末の時点で不登校生徒の在籍比率は13.4%であった。

○学力・体力の向上について

- ・「全国学力学習状況調査」「中学生チャレンジテスト」において、全国・大阪府・大阪市の平均正答率を上回る結果を残している。しかしながら、学年によって調査結果（平均正答率や平均無回答率等）に差異がある。また、全国体力・運動能力等調査結果からは、全国や大阪市の体力合計点にとどいていない状況である。

○教職員の勤務時間について

- ・昨年度2月における教職員の一人当たり平均時間外勤務時間が、大阪市平均と比べると約10時間長い。また、勤務時間の上限に関する基準を満たす教員（基準1：24.44%、基準2：53.33%）となっており、教職員の半数近くが長時間勤務となっている。

※(1) 基準1〔原則〕

- ア 1か月の時間外勤務時間が45時間を超えない
- イ 1年間の時間外勤務時間が360時間を超えない

(2) 基準2〔基準1を超えて勤務する場合においても、次のアからエまでの基準を満たすこと〕

- ア 1年間の時間外勤務時間が720時間を超えない
- イ 1か月の時間外勤務時間が45時間を超える月を1年間に6月まで
- ウ 1か月の時間外勤務時間が100時間を超えない
- エ 連続する複数月（2か月、3か月、4か月、5か月、6か月）のそれぞれの期間について、時間外勤務時間の1か月当たりの平均が80時間を超えない

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- ・年度末の校内調査において、各学年の不登校生徒の在籍比率を前年度以下にする。（基本的な方向1）

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・中学校チャレンジテストにおける5教科の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も1.0以上にする。（基本的な方向2）

【学びを支える教育環境の充実】

- ・勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合を前年度以上にする。（基本的な方向7）
- ・月1回「ゆとりの日」を設定し実施する。（基本的な方向7）
- ・年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を前年度以上にする。（基本的な方向7）
- ・授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。（基本的な方向6）

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- ・年度末の校内調査において、各学年の不登校生徒の在籍比率を前年度以下にする。

令和6年度 1年	令和6年度 2年
7.2%	15.2%

- ・年度末の校内調査における「学校行事に積極的にかかわるなど、楽しい学校生活を過ごせていますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を前年度以上にする。

令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
91.4%	92.3%	91.1%	94.0%

- ・年度末の校内調査における「学校のきまりを守っていますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を93.4%以上にする。

令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
97.2%	95.8%	95.8%	93.3%

- ・年度末の校内調査における「命や人権の大切さについて考えたことがありますか。」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する生徒の割合を前年度以上にする。

令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
95.8%	94.6%	93.4%	97.3%

- ・年度末の校内調査における「人の役に立つ人間になりたいと思いますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を92.7%以上にする。

令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
96.1%	96.5%	93.7%	92.6%

- ・年度末の校内調査における「本校では、CTの時間をとおして「絆」「命」「夢」について指導している」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を前年度以上にする。

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
「絆」	94.1%	94.2%	95.3%	97.7%
「命」	95.1%	93.9%	95.1%	97.3%
「夢」	90.7%	89.7%	88.6%	90.7%

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 中学生チャレンジテストにおける、国語及び数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.1P以上向上させる。

	1年(78期生)		2年(77期生)		3年(76期生)	
	国語	数学	国語	数学	国語	数学
令和6年度	1.03	1.03	1.12	1.34	1.02	1.12
令和5年度			1.14	1.26	1.06	1.14
令和4年度					0.99	1.09

- 大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を前年度以上にする。

令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
71.2%	69.4%	64.9%	74.4%

- 年度末の校内調査における「授業やCTの時間などで「聞き取る」「考える」「伝える」の3つの力を身につけていますか。」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する生徒の割合を前年度以上にする。

令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
35.5%	34.1%	38.1%	47.7%

- 年度末の校内調査における「授業に意欲的に取り組んでいますか。」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合を前年度以上にする。

令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
88.1%	86.3%	87.7%	92.7%

- 年度末の校内調査における「学校からの教材などを活用して家庭学習の習慣化ができていますか。」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合を前年度以上にする。

令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
69.5%	72.1%	71.2%	75.9%

- 年度末の校内調査における「保健体育の授業や部活動をとおして基礎体力の向上に取り組んでいる。」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を前年度以上にする。

令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
60.3%	53.3%	53.9%	49.7%

【学びを支える教育環境の充実】

・勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合を前年度以上にする。

・毎月における時間外勤務が80時間を超える教職員の割合を減少させる。

月（令和6年度）	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
月の時間外勤務が80時間を超えた割合	36%	26%	18%	18%	0%	20%	20%	12%	8%	12%	6%	10%

・月1回「ゆとりの日」を設定し実施する。

・年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を81.4%以上にする。

（令和6年度 81.3%）

・授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。（令和6年度 0%）

・本市調査における、生徒1人当たりの学校図書年間貸出冊数を前年度以上にする。

令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
1.6冊	1.8冊	1.3冊	0.8冊

3. 本年度の自己評価結果の総括

【安全・安心な教育の推進】

・本校の不登校在籍比率が令和4年から10%以上を超えており、学年が上がるに連れて、学年別の不登校在籍比率が20%へ近づいている。この現状を校内体制の課題として挙げ、教職員の積極的な対応を推進しているが解決に至っていない。SSRへは23名の生徒が登録しており、毎日平均8名が活用している。本来であれば学校へ登校できなかったが、SSRという学校での居場所があることにより、少しずつ学校へ登校できるようになっている生徒が一定数いる。

・いじめの認知と判断を特定の教職員のみで行うことなく、学校におけるいじめの防止策の対策のための組織を活用して行うこと、表面的・形式的に対応することなく、いじめられた生徒の立場に立つことを全教職員が徹底する。また、学校側が対応する際の根拠について、全教職員が把握する。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

・学力について、経年の観点から分析すると、平均値、中央値、ヒストグラムの形状無回答率は、学年セクト化されたり、特化された教科があるわけではなく、授業者によって大きな差が生じている。よって、組織として学力向上に取り組む必要がある。

【学びを支える教育環境の充実】

・残業時間を減らすことのみが働き方改革の目的ではなく、これまでの組織連携について、更なる課題の解消に向けていくために、次年度から業務の細分化と明確化された組織運営を教職員全員で実施する。

大阪市立花乃井中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【安全・安心な教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度末の校内調査において、各学年の不登校生徒の在籍比率を前年度以下にする。 ・年度末の校内調査における「学校行事に積極的にかかわるなど、楽しい学校生活を過ごせていますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を前年度以上にする。 ・年度末の校内調査における「学校のきまりを守っていますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を前年度以上にする。 ・年度末の校内調査における「命や人権の大切さについて考えたことがありますか。」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する生徒の割合を前年度以上にする。 ・年度末の校内調査における「人の役に立つ人間になりたいと思いますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を前年度以上にする。 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【1-1 いじめへの対応】</p> <p>いじめをはじめとした様々な事案に対して、子どもに寄り添う指導を行い生徒理解に努める。各生徒の状況を全教職員で共通理解し、きめ細かく速やかな対策を講じるとともに、家庭との連携を密にして対応する。（生活指導部）</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学期に1回、いじめアンケートを実施する。 ・相談申告機能を活用し、情報の収集に努める。 ・月1回の職員会議にて、いじめや不登校傾向生徒の状況を全教職員で共有する。 	B
<p>取組内容②【1-2 不登校への対応】</p> <p>不登校傾向生徒の居場所づくりと家庭支援の充実を図る。職員会議等で生徒の情報共有を充実させる。生徒の状況に合わせ、各関係機関を活用し、不登校生徒の見える化を図る。SSR サポーターと情報共有・連携を行う。スクリーニングシートを活用し、気になる生徒をピックアップして適切な支援や対応に振りわけ、スクリーニング会議を充実させる。（生活指導部）</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度末の校内調査において各学年の不登校生徒の在籍比率を前年度以下にする。 ・月1回いじめ・不登校対策委員会を実施し、いじめや不登校生の状況を全教職員で共有する。 	B

<p>取組内容③【1-3 問題行動への対応】</p> <p>学校生活を通じて、日常的に全教職員で集団規律の確立を心掛け、あいさつ・適切な言葉遣い・服装・頭髪等の生徒の規範意識を育む指導を継続的に取り組む。 (生活指導部)</p>	B
<p>指標</p> <p>年度末の校内調査における「学校のきまりを守っていますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を前年度以上にする。</p>	
<p>取組内容④【1-5 防災・減災教育の推進】</p> <p>地震や火災等の発生時に自分で危機を回避するために主体的に行動するとともに、自他の生命を尊重し、安全で安心な社会づくりに貢献できる生徒を育成する。 (生活指導部)</p>	B
<p>指標</p> <p>防災・減災教育の一環として、年2回以上防災教育を実施し、そのうち1回は地域と連携したものとする。</p>	
<p>取組内容⑤【2-1 道徳教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な教材に触れ、自分の意見も大切にするとともにほかの人の意見を知る機会を授業展開に組み込み、ほかの人の意見も大切にすることを養う。 ・生徒の反応を見取るため、「道徳のきろく」を活用する。(CT委員会) 	B
<p>指標</p> <p>授業ごとに「道徳のきろく」に感想を書かせ、自分の考えたことを振り返ることができるようにする。また、授業展開の中に自分の意見を発表する場をつくり、話すこと・聞くことに重点をおく時間をつくる</p>	
<p>取組内容⑥【2-2 キャリア教育の充実】</p> <p>職業講話や職場体験、および高校進路学習を行い、将来の進路選択に対する意識を養う。 (CT委員会)</p>	B
<p>指標</p> <p>各学年の年間計画に従って、キャリア教育(職業体験・職業講話・高校授業体験等)を実施する。</p>	
<p>取組内容⑦【2-3 人権を尊重する教育の充実】</p> <p>人権課題に対する正しい理解と認識を深め、日常生活の中で自他の生命と尊厳を互いに尊重し合う態度を育むため、年間指導計画に基づいた学年ごとの取り組み、地域・保護者と連携した取り組みを推進する。(CT委員会・性教育推進委員会)</p>	B
<p>指標</p> <p>年間指導計画に基づき、各学年の状況に応じて行う。人権教育に関する取り組みを1回2時間以上で年3回以上実施する。</p>	
<p>取組内容⑧【2-4 インクルーシブ教育の充実】</p> <p>一人ひとりのニーズに応じた適切な指導及び必要な支援の在り方を工夫し、全教職員で共通理解を図る。今年度より始めている通級指導教室について、教員への共通理解を図る。 (特別支援教育推進委員会)</p>	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員へ職員会議等で情報を共有する。 ・各支援学校と視覚支援生徒および保護者、担当教員との連携を深める。 ・インクルーシブ教育推進担当と連携し、教員への理解を深める。 	
<p>取組内容⑨【2-5 多文化共生教育の充実】</p> <p>外国にルーツを持つ生徒への異なる文化や価値観に対する理解を深め、各学年の実態に応じて多文化共生教育を推進する。 (CT委員会)</p>	B

指標

共生支援拠点校とも連携し多文化共生の取り組みを年1回は実施する。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取組内容①【1-1 いじめへの対応】(生活指導部)

- ・「いじめアンケート」の実施と毎週金曜日には「一週間を振り返って」を書かせ、いじめ等の情報収集に努めた。各学年で「いじめ」ととらえられる事象が発生し、学年で対策を講じているが、全てが解消しておらず、継続中の事案も多い。

取組内容②【1-2 不登校への対応】(生活指導部)

- ・不登校に分類される生徒は、2学期段階で1年20名、2年18名、3年35名と前年より増加傾向にあるとともに、1学期より全体で10名増加した。また「不登校傾向生徒」の在籍比率も増加した。
- ・職員会議等で、不登校傾向生徒の状況を全職員で共有するとともに、SSRと連携して、個々に応じた対応に努めた。

取組内容③【1-3 問題行動への対応】(生活指導部)

- ・集会・学級等で、集団規律の確立を心掛けているが、ルールを大きく逸脱した生徒はいないが、名札等の忘れ物が非常に多かった。また1年生において、級友だけでなく、教職員への暴言なども多発しており、保護者への連絡はもちろん、別室指導など対策を講じた。

取組内容④【1-5 防災・減災教育の推進】(生活指導部)

- ・5月1日に地震及び津波を想定した避難訓練を実施し、生徒に防災に関する意識を持たせた。

取組内容⑤【2-1 道徳教育の推進】(CT委員会)

- ・道徳の授業で「道徳のきろく」を活用し、各授業で学んだことを記録している。
- ・授業の中で、教員からの話に加えてペアやグループでの活動を入れるようにし、他者の意見を取り入れることを意識している。

取組内容⑥【2-2 キャリア教育の充実】(CT委員会)

- ・1年：2月に職業講話を実施。
- ・2年：夏休みの宿題で「求人票づくり」、11月に職場体験を実施。3月に先輩に話を聞こうを実施予定。
- ・3年：1学期に高校授業体験を実施。

取組内容⑦【2-3 人権を尊重する教育の充実】(CT委員会・性教育推進委員会)

- ・各学年、一泊移住や校外学習、修学旅行などの学校行事を通じて、人権意識の向上に取り組んだ。
- ・1年は10月21日にパラリンピックキャラバンの方に来ていただき、障がい者学習を行った。3月10日に実施する平和教育の中でSDGsを軸にして人権を尊重することの大切さを学習する予定。
- ・2年は5月22日の学年集会で車いすダンスの話を通じて、障がい者理解を促した。
- ・性教育に関して、1年は2月に生命誕生について実施した。
- ・2年は1学期に青山先生の講話より、男女交際やデートDV、生命誕生について学んだ。
- ・3年は8月22日に性感染症についてや生命誕生について、助産師の方により講話を聴き、改めて自分の行動の責任と向き合うことを学んだ。

取組内容⑧【2-4 インクルーシブ教育の充実】(特別支援教育推進委員会)

- ・毎月の職員会議で特別支援学級在籍生徒、通級利用の生徒の情報共有を行っている。
- ・支援学校と連携し、居住地校交流を行った。
- ・インクルーシブ教育推進担当の巡回相談を利用し、アドバイスをもらった。

取組内容⑨【2-5 多文化共生教育の充実】(CT委員会)

- ・月に2回中国語のサポーターの方に来てもらっているので、学年を問わず中国にルーツのある生徒を対象に授業や放課後に集まる場を持っている。
- ・各学年、学校生活を通じて多文化共生教育について考えることに取り組んでいる。引き続き、年度末に向けて各学年に応じた取り組みを実践できるようにしていく。

年度目標の達成状況

- ・年度末の校内調査において、各学年の不登校生徒の在籍比率を前年度以下にする。

⇒ 現1年生：10.1%、現2年生：9.8%、現3年生：17.4%、現全体：12.5%
(2月末の時点で27日以上欠席した生徒)

【令和6年度 花乃井 昨年度1年生：7.2%、昨年度2年生：15.2%
昨年度3年生：19.0%、昨年度全体：13.2%】

- ・年度末の校内調査における「学校行事に積極的にかかわるなど、楽しい学校生活を過ごせていますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を前年度以上にする。

⇒ 93.8%【令和6年度 花乃井 94.0%】

- ・年度末の校内調査における「学校のきまりを守っていますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を前年度以上にする。

⇒ 97.4%【令和6年度 花乃井 93.3%】

- ・年度末の校内調査における「命や人権の大切さについて考えたことがありますか。」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する生徒の割合を前年度以上にする。

⇒ 95.6%【令和6年度 花乃井 97.3%】

- ・年度末の校内調査における「人の役に立つ人間になりたいと思いますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を前年度以上にする。

⇒ 97.2%【令和6年度 花乃井 92.6%】

次年度への改善点

- ・月1回の職員会議・学年会、週1回の職員朝礼だけでは、問題行動等の情報共有が不十分であり、毎日の職員朝礼の復活が必要であると考えられる。

取組内容①

- ・SNSでのトラブルが多発し、いじめにつながっている場合が多い。スマホの使い方など情報モラルの徹底を図る必要がある。

取組内容②

- ・毎年増加傾向にあり、本人との信頼関係をさらに結び、保護者を交えての対策を講じる必要がある。

取組内容③

- ・今年度、近隣の中学校・小学校との学校間の繋がりから集団化し、問題行動に走る場合が多かった。学校だけでなく関係諸機関との情報共有をさらに進める必要がある。

取組内容④

- ・来年度も継続して、地震・津波を想定した避難訓練を実施する必要がある。

取組内容⑤

- ・各学年、計画的に道德の授業を進めることができた。
- ・授業では、様々な出来事について客観的に考えることができるが、それを日常生活に繋げて実践することは難しいので、日常生活に結び付けて授業を展開していく必要がある。

取組内容⑥

- ・1年：2月に職業講話を実施。冬休みの宿題で「職業インタビュー」を実施。
- ・2年：夏休みの宿題で「求人票づくり」、11月に職場体験を実施。
- ・3年：1学期に高校授業体験を実施。
各学年で次年度以降も計画し行っていく。

取組内容⑦

- ・各学年計画的に人権学習や行事に取り組むことができた。
- ・生徒の人権意識の向上のため、学年の実情に応じた人権学習を実施する必要がある。
- ・教職員の指導の足並みをそろえるため、教職員の研修を行いたい。

取組内容⑧

- ・通級指導を全教員にもっと発信していき、充実させていく必要がある。
- ・2回支援学校と居住地校交流を行ったが、支援学級の先生と相談する機会を増やす必要がある。

取組内容⑨

- ・人権と連携をしながら、国際理解教育を進めていく必要がある。
- ・中国にルーツがある生徒が多くはあるが、ネパール、タイ、ベトナムなど多国籍になっている。文化や背景を知る取り組みを来年度以降も計画していきたい。
- ・教職員向けにも発信をしていく必要がある。

大阪市立花乃井中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学生チャレンジテストにおける、国語及び数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。 ・大阪市英語力調査における CEFR A1 レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合（4技能）を前年度以上にする。 ・年度末の校内調査における「授業やCTの時間などで「聞き取る」「考える」「伝える」の3つの力を身につけていますか。」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する生徒の割合を前年度以上にする。 ・年度末の校内調査における「授業に意欲的に取り組んでいますか。」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合を前年度以上にする。 ・年度末の校内調査における「学校からの教材などを活用して家庭学習の習慣化ができていますか。」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合を前年度以上にする。 ・年度末の校内調査における「保健体育の授業や部活動をとおして基礎体力の向上に取り組んでいる。」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を前年度以上にする。 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容⑩【4-2 主体的・対話的で深い学びの推進】</p> <p>「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を進める」ことを念頭とした研究授業を行う。（校務運営部）</p> <hr/> <p>指標</p> <p>必ず年1回は全職員が指導案を作成する。また、全体研修会と授業研究・研究協議を実施する。</p>	B
<p>取組内容⑪【4-2 主体的・対話的で深い学びの推進】</p> <p>学校元気アップ事業を通して、地域の教育力を広く取り入れ、放課後学習会や家庭での学習の定着を図る。（校務運営部）</p> <hr/> <p>指標</p> <p>「放課後学習会」「テスト前自主学習」等を実施するとともに、各種コンクールや検定試験への参加を促す。</p>	B

<p>取組内容⑫【4-3 英語教育の強化】 各学年、英語教育のきめ細かな指導体制による英語力の充実を図る。 (英語科)</p>	
<p>指標 ・チャレンジテストにおいて大阪府の平均正答率を2.0ポイント目標上回る。 ・大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を前年度以上にする。</p>	B
<p>取組内容⑬【4-4 全市共通テスト等の実施と分析・活用】 全国学力・学習状況調査、各学年中学校チャレンジテストの過去問題を授業・宿題等で行う。 (校務運営部)</p>	
<p>指標 ・中学校チャレンジテストにおける5教科の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も1.0以上にする。 ・中学生チャレンジテストにおける、国語及び数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。 ・中学校チャレンジテストの前後で教科会を実施し、分析・情報共有を行い、教科全体として対策を行う。</p>	B
<p>取組内容⑭【5-1 体力・運動能力向上のための取組の推進】 基礎体力・運動能力の向上。体育的知識の理解促進。 (保健体育科)</p>	
<p>指標 年度末の校内調査における「保健体育の授業や部活動をとおして基礎体力の向上に取り組んでいる。」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を前年度以上にする。</p>	B
<p>取組内容⑮【5-2 健康教育・食育の推進】 ・食育だよりを発行し、食への興味・関心を引き出すとともに、自立や自己管理へつなげる。 ・生徒自身に日常の健康観察に気をつけ、感染予防に努めるように啓発する。 ・給食委員会を開き、校内のアレルギー生徒の把握し体制を整える。 (健康教育部)</p>	B
<p>指標 ・月1回食育だよりを発行し、食の啓発を行う。 ・保健だより等で家庭への働きかけを行う。 ・学期に1回以上給食委員会を開き、各学年と連携を取りながら情報共有を行う。</p>	
<p>取組内容⑯【4 小中一貫した教育の推進】 校下小学校と中学校との連携を深め、中学1年生ギャップをなくし、中学校進学をスムーズに進める。 (校務運営部)</p>	
<p>指標 ・小学校・中学校の相互授業参観を行う。 ・中学校にて部活動見学を実施する。 ・小学校専科(英語)を通して児童の情報共有を行う。</p>	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取組内容⑩【4-2 主体的・対話的で深い学びの推進】(校務運営部)

・全職員が指導案を作成した上で、「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を進める」ことを念頭とした研究授業を実施できている。また、総合的読解力の視点を取り入れた指導案の作成をしている。

取組内容⑪【4-2 主体的・対話的で深い学びの推進】(校務運営部)

・「放課後学習会」「テスト前自主学习」においては元気アップの活用が定着している。また、夏休みチャレンジとして各種コンクールの案内を実施した。

取組内容⑫【4-3 英語教育の強化】(英語科)

・大阪市英語力調査における CEFR A1 レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)が、前年度は74.4%に対し、今年度は68.6%となり、指標を達成できなかった。またチャレンジテストの結果については、3学年とも大阪府の平均正答率を2.0以上上回っているため、指標を達成できている。授業では会話練習から始め、プレゼンやスピーチを取り入れたり、読む、書く、聞くの技能をバランスよくできるように各学年取り組んでいる。

取組内容⑬【4-4 全市共通テスト等の実施と分析・活用】(校務運営部)

・チャレンジテストの結果において、指標を上回ることができなかったが、入学時の基準からはポイントが上がっており、一定の成果はみられる。

取組内容⑭【5-1 体力・運動能力向上のための取組の推進】(保健体育科)

・毎回の授業でトレーニングや柔軟運動を取り入れるようにしている。また、運動機会が減っているのでダッシュ等も入れながら基礎体力の定着に努めている。

取組内容⑮【5-2 健康教育・食育の推進】(健康教育部)

・食育だより、保健だよりを月1回発行している。また各学年フロアに日めくり給食カレンダーや絵こんだてを掲示することにより、食への興味・関心を引き出し、自己管理の手助けに繋がった。

・日常の健康観察は昼食時に放送で呼びかけをしている。今夏より暑さ指数(WBGT)を合わせて放送し、自己管理を促すきっかけにもなっている。

・給食委員会では適宜食物アレルギーや喫食状況を中心に情報交換を行い、給食時の事故に備えている。今冬から導入された食物アレルギー対応システムについて準備をすすめて、概ねシステムの対応ができている。しかし、給食に影響しない(保護者が判断されている等)食物アレルギーの抜けがあったので、追って対応している。

取組内容⑯【4 小中一貫した教育の推進】(校務運営部)

・小学校見学、小中連絡会を実施した。小中連携総会では、進路をテーマに研修を実施することができた。小中で目的意識を共有できたことは大きい。部活動見学では、2日の実施で101家庭192名(延べ人数)の参加があり、中学校入学への橋渡しになる取り組みとなった。

年度目標の達成状況

- ・中学生チャレンジテストにおける、国語及び数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。
⇒ 1年：国語1.00P、数学0.99P 【令和6年度 花乃井1年 国語1.03P、数学1.03P】
2年：国語1.02P、数学1.11P 【令和6年度 花乃井1年 国語1.03P、数学1.03P】
3年：国語1.13P、数学1.22P 【令和6年度 花乃井2年 国語1.12P、数学1.34P】
- ・大阪市英語力調査における CEFR A1 レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合（4技能）を前年度以上にする。
⇒ 68.6% 【令和6年度 花乃井 74.4%】
- ・年度末の校内調査における「授業やCTの時間などで「聞き取る」「考える」「伝える」の3つの力を身につけていますか。」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する生徒の割合を前年度以上にする。
⇒ 39.0% 【令和6年度 花乃井 47.7%】
- ・年度末の校内調査における「授業に意欲的に取り組んでいますか。」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合を前年度以上にする。
⇒ 91.2% 【令和6年度 花乃井 92.7%】
- ・年度末の校内調査における「学校からの教材などを活用して家庭学習の習慣化ができていますか。」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合を前年度以上にする。
⇒ 69.9% 【令和6年度 花乃井 75.9%】
- ・年度末の校内調査における「保健体育の授業や部活動をとおして基礎体力の向上に取り組んでいる。」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を前年度以上にする。
⇒ 63.5% 【令和6年度 花乃井 49.7%】

次年度への改善点

取組内容⑩

教員の働き方を考えた上で、各教科で総合的読解力の視点を持って取り組む手法に移行した。文章をじっくり読み、分析する力を各教科でつけていくことが課題である。教員への研修が必要である。

取組内容⑪

放課後学習会・チャレンジ講座は一定数の参加があり、安定しているが、各種コンクールの参加率は伸び悩んでいる。今後検討していく必要がある。

取組内容⑫

授業では会話練習から始め、プレゼンやスピーチを取り入れたり、読む、書く、聞く、話す技能をバランスよくできるように各学年取り組んでいる。即興的に考えてすることや英語を読む、書くということに課題があるので、授業や家庭学習の工夫が必要である。

取組内容⑬

結果から見える課題として、応用力はあるものの、基礎的な部分（漢字の書き取りなど）に課題がみられる。今後、家庭学習の定着を図っていく必要がある。

取組内容⑭

まだまだ運動習慣がない生徒が多いので、継続していけるように計画を立てて進めていく必要がある。また、基礎体力の定着だけでなく、運動習慣が身につくような活動を増やしていく。

取組内容⑮

引き続き食育の啓発を食育だよりやカレンダーを通して取り組むとともに、給食のマナーなども再度呼び掛けていく。また、食物アレルギーの管理の徹底や教職員の共有が抜けることがあったので、教職員全体で取り組めるように勧めていく。

取組内容⑯

形を変えて2年目になる。各取り組みに一定の成果がみられるため、今後も、この取り組みが続け、定着させていく。

大阪市立花乃井中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

【国語科】

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
図書室の利用方法及び設備環境を改善や国文法の定着を図り、生徒の「読解力」の向上に努める。	A

	進捗状況
取組内容① 習熟度に応じた授業を実践する。	B
指標 国文法の復習などで実践し、授業アンケートにて「授業がわかりやすい」の項目において、肯定的な回答が85%以上になるように教育活動に取り組む。	
取組内容② 本に触れ合う機会を増やし、読解力の向上及び長文苦手意識の解消をめざす。	B
指標 ビブリオバトルや読書郵便等の読書活動を授業で取り組む。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取組内容① 学年末におけるアンケートでは肯定的な回答が98%だったため、指標を達成できた。 1年生…書くことに着目した課題を設定した。結果として400字を40分ほどで書き切ることができるようになった。 2年生…パネルディスカッションを行い、多様な視点からテーマを深く理解し、学びを深めることにつながった。 3年生…国文法の復習を習熟度授業などで行い、文章を正確に理解し、論理的に表現する力を高めることができた。
取組内容② ・二学期にビブリオバトルを行い、読書に親しむ機会を作ることができた。また、校内で選ばれた生徒は府大会にも出場した。 ・図書室利用者数も昨年度と比較して、少しではあるが増加した。

次年度への改善点

<ul style="list-style-type: none"> 引き続き各学年工夫を凝らしながら、習熟度に応じた授業を展開していく。 読書活動についても、次年度も図書室利用者数を増加させることができるよう、力を入れていく。
--

大阪市立花乃井中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

【社会科】

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
大阪府チャレンジテスト、大阪市チャレンジテスト Plus において、大阪府、大阪市の平均を上回る。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容① 班学習やグループワークを行い主体的・対話的な学びを充実させる。	B
指標 授業アンケートにて「授業がわかりやすい」の項目において、肯定的な回答が85%以上になるように教育活動に取り組む。	
取組内容② 定期的に小テストや振り返りシートを行うなどし、基礎・基本の習得に努める。	B
指標 単元ごとに小テストを実施する。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
取組内容① ・一学期におけるアンケートでは指標を達成できた。 ・引き続き、授業内でペアワークやグループ学習を必要に応じて取り入れている。 ・単元によってはグループ学習の機会が少ない時もあるので、効果的な学習になるように授業を計画していく。
取組内容② ・小テストや振り返りシート、宿題プリントなどで基礎・基本の知識定着に努めている。 ・1～2週に1回出る課題により、継続的な家庭学習を促している。
次年度への改善点
・引き続き基礎・基本の定着に努めることを意識していく。 ・ペアワークやグループワークを増やして、対話的な活動の時間を増やしていく。

大阪市立花乃井中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

【数学科】

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
大阪府チャレンジテストにおいて、対府比の値を前年度以上にする。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容① 簡単な計算問題など、基礎・基本の習得に努める。	B
指標 班学習やグループワークを行い、理解を深める。	
取組内容② 生徒の苦手とする設問を把握する。	B
指標 ・小テストを週に1度以上行い、生徒の実情を把握し、授業改善に充てる。 ・また、チャレンジテストの前では、苦手な設問をできるように取り組ませる。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
取組内容① ・デジタルドリルやプリントを活用し、生徒が自ら考え学べるようにした。また習熟度別授業を行い、基礎・基本の定着に努めることができた。 ・定期的に課題を出し、家庭学習を促した。 ・話し合い（聞き合い）の場面をさらに設定できるよう、単元に応じて計画した。	
取組内容② ・チャレンジテストや全国学力テスト、定期テストの結果だけでなく、小テストを行うことで、苦手とする設問の把握に努めた。	
次年度への改善点	
・引き続き、基礎・基本の定着に努めることを意識していきたい。 ・グループワーク等をもう少し増やして、学び合いの時間を増やしていく。	

大阪市立花乃井中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

【理科】

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
理科が身近な生活に密接に関わっていることを知り、理科への興味関心を高める。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容① 理科を身近に感じるように、実験・観察をベースとした授業を行う。	B
指標 理科室を使用した授業を単元に1回は行う。	
取組内容② 主体的で対話的な深い学びを実践した授業を展開する。	B
指標 授業アンケートにおいて、「授業がわかりやすい」の肯定的な意見が85%以上になるようにする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
取組内容① ・2年生では、「生物」単元で6回、「化学」単元で7回、「地学」単元で5回、「物理」単元で9回の生徒実験（理科室使用）を実施した。	
取組内容② ・12月調査で、「わかりやすい」と回答した率が88.3%に達していた。	
次年度への改善点	
・取組内容①について、理科室の整備を進めていく必要がある。	

大阪市立花乃井中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

【英語科】

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成 状況
令和7年度チャレンジテスト、平均点が大阪府平均を上回る。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗 状況
<p>取組内容① 発達段階に応じた「聞く」「話す」に加え、「読む」「書く」の育成も含めたコミュニケーション能力をはぐくみ、基礎基本の英語力を養う。</p> <p>指標 「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能を相互的に学ぶために、授業内においてグループ学習やペア学習を積極的に取り入れる。自己表現の発表の活動を学期に1回行う。</p>	B
<p>取組内容② 習熟度に応じた授業を実施する。</p> <p>指標 各学年、習熟度に応じた少人数授業を行う。年度末のアンケートで習熟度別授業に関する肯定的な回答を7割以上とする。</p>	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>取組内容① ・「話し合い（聞き合い）」する場面は、必要に応じて、取り入れている。ペア学習やグループ学習を通して相互的に学べるように工夫して取り入れている。習熟度別少人数授業や入り込みを実施することで、生徒が主体的に学習に取り組め定着するよう努めている。</p> <p>取組内容② ・必要に応じて習熟度別少人数授業を実施することで、生徒が主体的に学習に取り組めるように努めている。</p>	
次年度への改善点	
<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、習熟度別少人数授業を効果的に実施する。 ・基礎をしっかりと定着することを意識して授業を進めていけるようにする。 	

大阪市立花乃井中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

【音楽科】

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
表現及び鑑賞の活動を通して、豊かな感性を育てるとともに、音楽活動の基礎的な能力を培う。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容① 歌唱、器楽の取り組みを充実させる。	B
指標 歌唱・器楽の実技テストでは、平均80点を超えるように取り組む。	
取組内容② 音楽鑑賞	B
指標 楽曲分析を始め、作曲家の人生や、時代背景などとリンクし、少しでも興味・関心を持てるように取り組む。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
取組内容① ・実技の練習をするときにグループワークをして、教え合うことや協力して班で発表することを授業内容に入れている。
取組内容② ・すぐに教材の内容に入っていくのではなく、その曲や作曲者に関連する国を知れるようにパワーポイントを使って導入を行う。また、展開の段階でもクイズ形式にしたり、グループワークを行い、一つの答えを考える活動を行っている。
次年度への改善点

大阪市立花乃井中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

【美術科】

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
生活や社会の中の美術や美術文化などに関わり、美術を愛好する心情や態度を育てる。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容① 自分の身の周りがあることに興味を持ち、自分で考え感じたことを自分の作品に表現できる力をつける。</p> <p>指標 ICT 機器を使って調べた資料を参考にしながらも、自分の考えや表現に繋げて制作できるように取り組む。</p>	B
<p>取組内容② 作品の制作課題にあった美術鑑賞を取り入れ、対話型鑑賞により違った見方や考え方をすることで表現活動に生かす。</p> <p>指標 鑑賞活動では1年に1度は ICT 機器を使い、また対話的鑑賞やグループワークを行い多様な見方や意見を知ることで自分の制作に生かすように取り組む。</p>	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>取組内容① ・部屋のデザインや身近な人物、レタリングなど身近なものを題材とした作品に取り組んだ。ICT 機器はほぼ毎回使用しており、適切な資料提示や動画での作例を Teams に流している。</p> <p>取組内容② ・3年生のヒロシマ・アピールズポスターでは実際に28作品を見て、自分の感性に合う作品を探し、鑑賞を行った。グループワークは未実施であるが、自分の選んだポスターをみんなでPC上で共有し、なぜ選んだかの理由を言葉で交流している。</p>	
次年度への改善点	
<ul style="list-style-type: none"> 生活の実態に合った題材の研究として、身近なことや社会を意識しつつ、授業での制作活動をつなぐような学習計画がのぞましい。また、作品を作った後に作品を大切にできる、工芸作品として実用化のあるものも取り入れていくといいと考える。 時代に合わせた題材も視野に入れ、魅力的な授業展開も目指す。 	

大阪市立花乃井中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

【保健体育科】	評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
		C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
子どもの体力向上に繋がる授業改善に取り組み、運動に対する興味関心を高める。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容① 保健体育の授業や学校、学年での体育的行事、部活動等を通して、運動やスポーツに慣れ親しむとともに、体力向上に向けての取組を実施する。</p> <p>指標 令和7年度全国体力・運動能力・運動習慣等調査の質問において、「運動やスポーツをすることが好きですか」の項目への肯定的な回答を80%以上とする。</p>	B
<p>取組内容② 授業で、補強運動を取り入れて、筋力強化を図り、健やかな生徒の体力育成に努める。</p> <p>指標 年度末の校内調査における「保健体育の授業や部活動をとおして基礎体力の向上に取り組んでいる。」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を前年度以上にする。</p>	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>取組内容①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まだまだ運動習慣がない生徒も多いので、体力向上と心身の健康のために授業に興味関心を持たせるように進めていきたい。 ・令和7年度全国体力・運動能力・運動習慣等調査の質問において、「運動やスポーツをすることが好きですか」の項目男子は肯定的な回答が80%以上だったが、女子は「やや嫌い」の否定割合が肯定的な回答を上回っていた。 <p>取組内容②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回の授業でトレーニングや柔軟運動を取り入れるようにしている。また、運動機会が減っているのでダッシュ等も入れながら基礎体力の定着に努めている。 	
次年度への改善点	
<ul style="list-style-type: none"> ・まだまだ運動習慣がない生徒が多いので、継続していけるように計画を立てて進めていく必要がある。また、基礎体力の定着だけでなく、運動習慣が身につくような活動を増やしていく。 	

大阪市立花乃井中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

【技術・家庭科】	評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
		C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成 状況
自分自身の生活と人生について考え、将来を見つめながら自分らしく自立して生きるための力を主体的に身につける。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗 状況
取組内容① 単元の特性に合わせて協働学習を行い、思考力や判断能力を高める授業づくりを行う。	B
指標 学期に1回以上のグループ学習を実施し、コミュニケーション能力を伸ばす。また、ICTを中心に用いた授業を単元に応じて実施する。	
取組内容② 生活を豊かにするための知識・技能を定着させ、主体的に実践し、課題解決に向けて粘り強く取り組む姿勢を育む。	A
指標 技術家庭の年度末アンケートを授業内で実施し、そのアンケートで「授業での学びは、現在の自分の生活の中で役立っている、もしくは今後の生活で役に立つと思う」の項目で、肯定的な回答を70%以上にする。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
取組内容① ・学期や単元ごとに協働学習を行っている。様々な考え方やアイデアに触れ、自他ともに意見を言える環境づくりに努めた。一人一台端末を使いICTを利用した発表や実技作業を班活動で試行し実践するなど、協働学習をすることで効率的に習得できる環境を作ることができた。	
取組内容② ・年度末アンケートを行い、授業内で生徒たちが「生活に役立てることができる」と肯定的に思う生徒が97%を占めることができた。また、肯定的な回答から最も当てはまると答えた割合は75%であった。個々の生徒が置かれる多様な環境すべてに沿う内容提示や具体的な状況に応じた発問に対して考え、発表するなどが生徒が生活に密着していると実感できていた。	
次年度への改善点	
<ul style="list-style-type: none"> ・一部の生徒の意見に偏ることもあったので、自他の考えや意見に触れる環境づくりを継続するとともに、考えや意見をいろいろな形で発表できる機会を増やす。 ・さらに生活に反映できるような具体的な内容や意見発表の機会を作り、試行できるように授業展開をしていく。 	

大阪市立花乃井中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

【特別支援教育】	評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
		C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
生徒一人ひとりの学習面、生活面の課題を把握して達成感や満足感を感じさせ、資質の能力を高める。また体験や自立活動を行い豊かな情緒や、創造性、社会性を育てる。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容① 生徒一人ひとりを意識的に観察して PDCA サイクルを策定し、個別の指導計画、教育支援計画を見直す。</p> <hr/> <p>指標 保護者との個別の懇談を年2回以上行い、その都度個別の指導計画、教育支援計画を更新していく。</p>	B
<p>取組内容② 特別支援教育推進委員会、職員会議で特別支援学級在籍以外の配慮をしなければならない生徒の情報を常に発信していく。</p> <hr/> <p>指標 ・特別支援教育推進委員会を年2回以上開催する。 ・教職員全体に、配慮を要する生徒のことを担任や、教科の先生に連絡を密にする。</p>	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>取組内容① ・保護者、担任と相談しながら個別の指導計画、教育支援計画を作成した。変更があった場合はその都度修正していった。</p> <p>取組内容② ・特別支援推進委員会を開催し、情報共有を行った。 ・職員会議、学年会で配慮を要する生徒の情報も共有している。</p>	
次年度への改善点	
<p>・学期末に特別支援推進委員会を開催し、学期の振り返りや次学期に向けて話し合う機会を作る。 ・職員会議、学年会で情報を共有することができた。次年度は通級在籍生徒の情報も共有できるような体制を考える。</p>	

大阪市立花乃井中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【学びを支える教育環境の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合を前年度以上にする。 ・毎月における時間外勤務が80時間を超える教職員の割合を減少させる。 ・月1回「ゆとりの日」を設定し実施する。 ・年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合前年度以上にする。 ・授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。 ・本市調査における、生徒1人当たりの学校図書年間貸出冊数を前年度以上にする。 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容⑰【6-1 ICTを活用した教育の推進】</p> <p>ICTを活用しながら生徒の個別最適な学びの推進を行う。また、ICTサポーターや教員アンケートを活用し、教員間のICT活用を推進する。 (ICT委員会)</p> <p>指標</p> <p>授業日において、生徒が学習者用端末を活用した割合の月平均が年間の8ヶ月以上で前年度を上回る。</p>	B
<p>取組内容⑱【7-1 働き方改革の推進】</p> <p>勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合を前年度以上にする。 (管理職)</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・繁忙期・生徒指導事案対応を除き、教職員全員が19時00分に退勤する、職員室の気質を作る。 ・行事の任務分担の明確化を行い、各部署で計画的に進める。 ・授業研究及び資料作成を計画的に行い、見通しを持って業務を進める。 	B
<p>取組内容⑲【8-3 学校図書館の活性化】</p> <p>開館時間を増やし、生徒と教員の利用機会を拡大させる。また、蔵書冊数を確保し、多様なメディアにも留意して、幅広い資料をそろえる。 (校務運営部)</p> <p>指標</p> <p>本市調査における、生徒1人当たりの学校図書年間貸出冊数を前年度以上にする。</p>	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取組内容⑰【6-1 ICTを活用した教育の推進】(ICT委員会)

- ・学習者用端末を有効に使えるよう教員対象に11月にICT研修を行った。
- ・学習者用端末利用状況は昨年度と比較して5月以外は上回ることができた。
- ・生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数を前年度の0日から3日と増やすことができた

取組内容⑱【7-1 働き方改革の推進】(管理職)

- ・前年度3月の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合は、48.89%
- 前年度1月の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合は、55.56%
- 今年度1月の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合は、52.08%

基準2：

- ア 1年間の時間外勤務時間が720時間を超えないようにすること
- イ 1か月の時間外勤務時間が45時間を超える月を1年間に6月までとすること
- ウ 1か月の時間外勤務時間が100時間を超えないようにすること
- エ 連続する複数月(2か月、3か月、4か月、5か月、6か月)のそれぞれの期間について、時間外勤務時間の1か月当たりの平均が80時間を超えないようにすること

- ・指標を基に、働き方改革を推進しているが、

前年度3月の本校の教職員一人当たりの平均時間外勤務時間は	48時間39分
前年度1月の本校の教職員一人当たりの平均時間外勤務時間は	49時間25分
今年度1月の本校の教職員一人当たりの平均時間外勤務時間は	43時間45分
今年度1月の大阪府中学校の教職員一人当たりの平均時間外勤務時間は	37時間02分
- ・4月から、19時30分までに教職員が完全退勤できた日は夏休みと冬休みを除くと9日間である。
- ・8月から職員会議と学年会、教職員のほとんどが参加する校外研修の日は「ゆとりの日」改め、「ノー残業デー」を実施しているが、繁忙期や生徒事案対応と重なることが多いため、実施による効果はほとんど得られていない。

取組内容⑲【8-3 学校図書館の活性化】(校務運営部)

- ・2学期後半に2年生がビブリオバトルを行う予定のため、学年と連携して図書室の本の拡充に努めていく。また、図書委員会を中心に朝読書の推進や読書の木の取り組みを行って図書館の利用機会を増やしている。多様なメディアという点では、DVD資料はあるが活用をできていない状況のため、ICT委員会などと連携していく必要があるといえる。

年度目標の達成状況

- ・勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合を前年度以上にする。
⇒ 54.17%【令和6年度 花乃井 57.78%】(令和8年1月末の時点)

- ・毎月における時間外勤務が80時間を超える教職員の割合を減少させる。
⇒

月(令和7年度)	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
月の時間外勤務が80時間を超えた割合	20%	10%	16%	14%	2%	14%	27%	4%	2%	2%	—	—

月(令和6年度)	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
月の時間外勤務が80時間を超えた割合	36%	26%	18%	18%	0%	20%	20%	12%	8%	12%	6%	10%

- ・月1回「ゆとりの日」を設定し実施する。
⇒

月(令和7年度)	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
ゆとりの日の実施回数	0	0	0	0	0	2	2	3	0	0	1	—

- ・年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合前年度以上にする。
⇒ 91.8%【令和6年度 花乃井 81.3%】(令和8年2月末の時点)

- ・授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。
⇒ 2.0%【令和6年度 花乃井 0%】

月(令和7年度)	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
生徒の8割以上の学習者用端末利活用率	—	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0.8%	1.5%	2.0%	—	—

- ・本市調査における、生徒1人当たりの学校図書年間貸出冊数を前年度以上にする。
⇒ 0.94冊【令和6年度 花乃井 0.80冊】

次年度への改善点

取組内容⑰

- ・生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数を増やすために classroom を各授業や学活等で有効利用できるような情報共有を行う。

取組内容⑱

- ・令和8年度から変更する「業務の細分化と明確化」された組織運営を教職員全員が同じベクトルで遂行する。

取組内容⑱

- ビブリオバトルの取り組みを中心に図書館活用が活性化している。今後もこの取り組みを継続していく。
- 視聴覚資料の活用については、今後とも検討を継続していく必要がある。